

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「ふれあおう まなびあおう かがやこう」  
 <知> 共に学び合い、学習を深めようとする子を育てます。  
 <徳> 自他の違いを認め合い、基本的自尊感情を高め、お互いを大切にする子を育てます。  
 <体> 心と体を鍛え、自分や人の命を大切にする子を育てます。  
 <公> 地域の人や自然とふれあい、進んで関わろうとする子を育てます。  
 <開> 様々な人々とのコミュニケーションを通じて、お互いを理解しあえる子を育てます。

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>

<言語能力>

具体化した資質・能力

《伝え合うことで自分の考えを深化させる力》

<主体的に取り組む力>  
<他者を理解する力>

<自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝える力>

中期取組目標

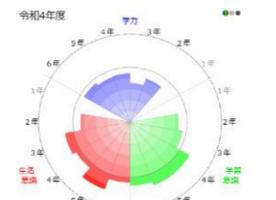
○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、対話的・協働的な学びを充実させます。  
 (低)一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合うことを通して、学び合う楽しさを実感できる授業づくりを推進します。  
 (中)「人・もの・こと」との関わりの中で、思いを伝え合い、互いの考えを認め合うことのできる豊かな人間関係力の向上を図ります。  
 (高)自ら進んで問題解決を図り、自分の考えや思いを表現し共に高め合えるような学習を通して、自分の考えを広げたり、深めたりできる授業づくりを目指します。  
 (共通)各発達段階に応じて「聞く力」「話す力」「話し合う力」の能力を設定し、話し合うための基礎基本的なスキルの定着を図ります。  
 ○「人」「もの」「まち」「自然」とのふれあいを大切に、本物にふれる体験を通して豊かな心を育てます。  
 ・3年間を通して、新たな価値の発見の場を増やし、豊かな感性を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	「伝え合うことで自分の考えを深化させる力」を育成するために研究していく。「深化させる」とはどういう姿が見られたときなのかを具体的に考えながら低・中・高学年において目指す姿を設定し研究を進めていく。学校全体で、学んだことを次に生かし、研究を深めていく。
担当	研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態(令和4年度調査より)  
 円グラフから、どの学年においても横浜市の学力平均を下回っていることが分かる。学年によって、苦手とする観点に違いがあるものの、どの教科でも知識・理解の習得が十分とは言えず、基礎・基本の学力の定着が求められている。  
 一方で、生活意識や学習意識については、横浜市の結果を上回る項目が多く、生活や学習を前向きにとらえ、意欲的に活動しようとしていることが分かる。本校の児童の良さを生かしつつ、学んだことを「生きてはたらく知」としていただくために、身近な生活と結びつけた学習を大切に、友達と協働して解決したり、自ら新しい問いを見いだしたりしていくような授業展開や単元構成の工夫に取り組んでいきたい。



(2) これまでの学校の取組状況  
 「伝え合うことで自分の考えを深化させる力」を育成するために授業者が中心となって各学年でさまざまな手立てを考え、取り組んだ。授業の目標を達成するために資料の活用など数々の成果が見られた。何より自分の考えの根拠を示すことの大切さを知ることができ、根拠がなくては、話し合いに深まりは生まれないことを痛感した。今年度も根拠をもった考えをもって、児童同士で話し合わせながら深化させることを目指していく。

今年度の目標

「伝え合うことで自分の考えを深化させる力」  
 ～伝えたい！分かり合いたい！深めたい！子どもの育成を目指して～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標を実現するために低・中・高学年において身に付けたい力を明確に設定する。【低学年】気付きを大切に思いや考えを表現しようとする力【中学年】根拠をもとに自分の考えをもち、他者との共通点・相違点を見つける力【高学年】根拠のある考えをもって交流し、多面的・総合的に物事を深くとらえる力</li> <li>【研究を深めるための3つの手だて】</li> <li>①教材研究の徹底と指導の工夫                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする活動ができる単元計画・授業展開にする。</li> <li>・目の前にいる児童の実態にあった魅力的な資料を作成したり、収集したりする。</li> <li>・授業の終わりには振り返りを行うことで学習に向かう態度の変容を見取りやすくする。</li> <li>・考えを整理したり、絞ったりするために学年・実態に応じた思考ツールを活用することで、思考を整理する。</li> <li>・事前に児童の思考に沿って板書計画をし、目指す子ども像の実現に向けて工夫・改善する。児童が見方や考え方の変容を振り返ることができるように、構造的な板書を工夫する。</li> </ul> </li> <li>②児童が豊かに自己表現し、学びを深め合うことができるように学習の場を工夫する。</li> <li>③スピーチ活動を全校で継続的に取り組むことで、伝えやすい雰囲気づくりを日頃から行う。</li> </ul>
下半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 目標を実現するために低・中・高学年において身に付けたい力を明確に設定する。【低学年】気付きを大切に思いや考えを表現しようとする力【中学年】根拠をもとに自分の考えをもち、他者との共通点・相違点を見つける力【高学年】根拠のある考えをもって交流し、多面的・総合的に物事を深くとらえる力</li> <li>(2) 研究を深めるために3つの手だてを設定する。</li> <li>①教材研究の徹底と指導の工夫                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする活動ができる単元計画・授業展開にする。</li> <li>・目の前にいる児童の実態にあった魅力的な資料を作成したり、収集したりする。</li> <li>・授業の終わりには振り返りを行うことで学習に向かう態度の変容を見取りやすくする。</li> <li>・考えを整理したり、絞ったりするために学年・実態に応じた思考ツールを活用することで、思考を整理する。</li> <li>・事前に児童の思考に沿って板書計画をし、目指す子ども像の実現に向けて工夫・改善する。児童が見方や考え方の変容を振り返ることができるように、構造的な板書を工夫する。</li> </ul> </li> <li>②児童が豊かに自己表現し、学びを深め合うことができるように学習の場を工夫する。</li> <li>③スピーチ活動を全校で継続的に取り組むことで、伝えやすい雰囲気づくりを日頃から行う。</li> </ul>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	・人やものとの関わりの中から規範意識をもち、自分らしさをのびのびと発揮するとともに、他の人のよさを認め、共に生きることを大切にする心を育てる。音楽朝会で友達とひとつの音楽を作り上げることを通して、自分らしき表現することの楽しさを感じる心、友達の表現のよさを認める心を育てる。読書活動を通して、いろいろなもの見方や考え方、感じ方に触れ、自分らしさや多様性について考えを深める。
担当	人権福祉委員会・音楽部・図書部

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関する児童の実態  
 元気よく、素直な児童が多い。のびのびとしている反面、思いのままに行動し、トラブルになることもある。自分の思いを大切にすると同時に、自分の言動が相手や集団に与える影響について、考えて行動することが望まれる。一人ひとりの特性・個性を認め合い、多様性を受け入れる環境の中で、自分らしさを発揮していけるようにしていきたい。

(2) これまでの学校の取組状況  
 ・日々の児童指導や児童理解研修等を通して、全教職員が情報を共有し、他機関とも連携しながら課題解決に向けて取り組んできた。  
 ・学校環境の材を生かし、地域の方々との連携を図る中で、栽培活動を通して、コミュニケーション能力を育んできた。栽培活動の規模は縮小していくが、新たな活動を展開したり、材を開発したりしながら、豊かな心につながるコミュニケーション能力を高めていきたい。  
 ・人権週間において、人権的な視点での授業実践、児童の委員会活動による取組、校長の講話、外部機関を招いての携帯電話安全教室、命の授業などを行った。  
 ・都筑図書館と連携し、人権的なテーマでのブックトークやおはなし会を開催した。また、読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせを昨年度より再開した。  
 ・昨年度はペア学年での聴き合いを中心に音楽朝会を再開した。今年度は全校での音楽朝会を予定している。

今年度の目標

自己理解・他者理解を深め、自他ともに大切にする思いやりの心・多様性を認める心を育むために、人権的な視点をもった学習、互いのよさを認め合う音楽朝会、読書習慣を身に付けるための読書活動を推進する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽朝会の実施(下半期も実施)</li> <li>・友達とひとつの音楽を作り上げることを通して、自分らしき表現することの楽しさを感じる心、友達の表現のよさを認める心を育む。</li> <li>○読書活動の充実(下半期も実施)</li> <li>・本を読んだり、読み聞かせを行ったりすることを通して、いろいろなもの見方や考え方、感じ方に触れ、自分らしさや多様性についての考えを深めることを目指す。</li> <li>・いろいろな本を手にとれるよう、学年ごとにテーマを設けた図書架の配架をする。</li> <li>○職員人権研修を行い、職員の人権感覚を高める。</li> </ul>
下半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書活動の充実</li> <li>・都筑図書館と連携し、ブックトーク・おはなし会を行い、読書の世界を広げることにより、いろいろな見方、考え方を知ったり、読書への興味を高めたりすることを目指す。</li> <li>○人権週間の実施</li> <li>・各学年の実態に合わせて、人権キャラバンや人権移動教室、認知症サポーター講座といった外部機関の出前授業等を活用して、人権に関して学び、考える機会を設定する。</li> <li>・道徳等の学習の中で、様々な人権にかかわる問題に関する授業を実施する。</li> <li>・児童の委員会による取組を行う。</li> </ul>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	・家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、食事や衛生に対する理解を深め、健康に生活することを意識できるようにする。 ・定期的に運動集会を行い、楽しく体を動かす機会を設定する。また、体育の授業時間の中で体力づくりにつながる運動をする時間をとる。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関する児童の実態  
 横浜市体力・運動能力調査では、「朝ご飯を毎日食べている」児童の割合が高いが、「たまに食べない」児童が一定数いる。また、「一日のパソコン・携帯電話・タブレット・ゲーム機の視聴時間」に関しては、長時間視聴する児童の割合が横浜市の平均に比べて多い学年がほとんどだった。運動能力に関しては、4～6年生が市の平均に近い能力があると思われるが、1～3年生に関しては、市の平均を下回っている。

(2) これまでの学校の取組状況  
 コロナ禍で他者と運動を楽しむ機会が限られる中で、できる限り運動量が確保でき、またその中で運動を楽しめるような活動を考え実施してきた。  
 主に体づくり運動を取り入れた集会を通して、他学年と一緒に運動を楽しむことができる機会を設定した。

今年度の目標

○体を動かすことが楽しいと感じる時間を増やし、休み時間や授業の中で主体的に運動をする児童を増やす。  
 ○学校保健委員会を中心に健康づくりを推進し、家庭と連携しながら健やかな体を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育の授業の中で、体づくりを主とした運動時間を確保する。</li> <li>○体づくり運動を取り入れた運動集会の開催。</li> <li>○課題解決に向けた実践につなげられるようにするために、横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果を一人ひとりの児童が振り返る時間を設定する。</li> <li>○学校保健委員会では、手洗いのソングの作成や、手洗いの呼びかけを通して、衛生を意識した生活を送れるようにする。</li> <li>○衛生に関する活動を、ホームページや保健だよりを通して家庭に発信する。</li> <li>○運動会に向けた活動を通して、他者と一緒に運動を楽しむことを知る。</li> </ul>
下半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育の授業の中で、体づくりを主とした運動時間を確保する。</li> <li>○体づくり運動を取り入れた運動集会の開催。</li> <li>○学校保健委員会では、換気と加湿チェックを通して、健康を維持するための環境を整えることを意識して過ごせるようにする。</li> <li>○衛生に関する活動を、ホームページや保健だよりを通して家庭に発信する。</li> <li>○一年間の健やかな体に関わる取組を、学校だよりで家庭や地域に発信する。</li> </ul>